

時代を貫流する流れと北東アジアの Missing Link の解消

NPO 法人「北東アジア輸送回廊ネットワーク」副会長、理事
三橋郁雄

& 1. 北東アジアを貫流する時代の流れ

米朝首脳会談が開催、半島の非核化が確認され、北朝鮮の体制維持が保証された。今後北東アジアは緊張から共生の方向へ舵を切るのではないか。この数十年間、強い暗雲が垂れ込めていた日本海に日が差し始めたようだ。既存の常識を大きく覆す出来事、即ち、奇跡は起こったのである。問題は今後この奇跡が続くかどうかである。

これをこの 200 年前からの人間社会の流れから推論する。

歴史をたどり、どの時代をも貫流する現象を洗い出してみる。非核化がこの流れに載ったものであればこの奇跡は続くと考え。それには世界が過去不連続的に大跳躍した出来事、即ち奇跡現象に注目する。

18 世紀は欧州文明が世界で卓越していた。19 世紀は帝国主義が席捲し、世界中に植民地が出現した。中国もインドも白人帝国主義の下、奴隷状態に在った。世界は白人の跳梁下の中で不安と疑心暗鬼に支配され、絶望と混迷の中にあっただといえる。

しかしこれ以降近代は、次のような奇跡が生起している。

- *1868：明治維新成る。何故か日本は植民地化を逃れた。非白人国の独立確保は実質世界初である。これは強い不安と疑心暗鬼の植民地時代の中で希望の灯を点した。近代の幕開けである。ほぼ完全鎖国から一気に開国を行った。日本の志ある者達が世界の潮流を知ることが出来、命を懸けて立ち上がったからである。
- *1905：日露戦争で日本が勝利。非白人国が白人国を打ち破った。弱小日本は世界の強国ロシアに武力で勝利した。理由は世界の潮流、時代の流れをつかんでいたからである。
- *19 世紀以降：科学技術の急速な進歩による科学的精神の普及。電気、機械、医学は国の生産力を高め、人口の急増を可能にした。科学の精神が多くの民衆に真実を伝え、長年付きまとい離れなかった迷信を追放した。民衆が科学という武器を得た。不安からの解放、真実への透明化が一気に進んだ。
- *1945：人類は究極兵器、核兵器の開発成功、日本への投下。これ以降、核兵器使用は人類の滅亡を招くとして戦争の抑止として機能し始めた。強大国同士は戦争をしたくても戦争を起こせなくなったのである。
- *1970 年代：日本の経済復興、アジア開発銀行発足 (1966)。戦争放棄の弱小国日本は武力に頼ることなく世界第 2 位の経済大国になった。武力がなくとも豊かになれることを示した。
- *1991：ソ連崩壊、冷戦終結。計画経済のソ連は平和裏に自由市場経済へ体制変更した。誰もが核戦争が予想していたが、時代の透明化の進展により西側の状況を見たソ連は、疑心暗鬼からの戦争遂行に陥らず、豊かな生活への指向を選択、血生臭い革命

を経ることなく体制を転向した。

- *2002：欧州通貨誕生（ユーロ）、欧州連合誕生（2009）。ドイツとフランスなどは長年の隣国同士の憎悪を捨て連携し通貨を一つにし経済的に一体化した。憎悪を捨てられるだけ相互の透明度が進んだことによる。
- *2010年代：スマートフォンによる情報通信革命。社会の透明化が民衆レベルまで世界的に一気に進んだ。相手事情が理解できることから、戦争の源である疑心暗鬼や憎しみの解消が進んだ。
- *2015：中国の経済復興、AIIB 銀行発足。旧時代のままと考えられていた中国が世界経済の中心に座り始めた。中国は毛沢東の主張する孤立政策を放棄し鄧小平の改革開放により世界経済との結びつきを強化し、日本なども積極的に援助し、国際社会との共存共栄に成功した。

このように世界の奇跡を見てみると、その中を貫流するものが見える。

それは人々のより豊かな生活を望む姿勢と行動であり、かつそのために必要である社会の透明化の進展である。これが、近代人類社会の歴史の中を一貫して流れており、これに棹差す行為は排斥され、これを加速させる行動は勝利している。

より豊かな生活を望む姿勢と行動は、個人の間では成長を願う生活に、地域の間では雇用の確保に、高い価値を置くものであり、何よりも子孫に平和な社会を残すことを最大の目標としている。このような方向に向けて社会は少しずつ前進しているが、本来的に強い従来のかんじきを乗り越えることは至難であり、結局、従来のかんじきを覆す行為・考えがエネルギーをためた上で突然爆発的に起こる、これで社会は一步上の階段ステップに上がることが出来る。これが奇跡である。

朝鮮半島問題も、この観点から考えると、先ず北朝鮮は米国と戦争すれば全滅することは承知しており、子孫のことを考えれば、この選択肢は取らない。従って自ら戦争を仕掛けることはしない。米国は北朝鮮を戦争で片づけることは韓国、日本の反対では出来ない、北朝鮮の体制を温存させることは米国としては本来北朝鮮国民の選択の問題と考えており、これに深入りしたくない、ただ米国への脅迫継続は許せないなので核兵器の廃棄だけは認めさせる、という考えである。北朝鮮が現政権を温存させたとしても、上記に述べた時代の潮流は今後時間の経過とともに必然的に北朝鮮の人々の考えを国際標準に近づけるので心配ない、と考えているのではないか。よって、米国は北朝鮮の体制温存問題にも譲歩したのであろう。

従って、朝鮮半島は今後緊張と恐怖の半島から、平和と協調の半島に向けて動き出すのではないか。

よって以下の出来事を新たな奇跡の一つとして記すことが出来る。

- *2018：米朝会談による朝鮮半島非核化始動。核開発を成功させた北朝鮮は米国と鋭く対立、核戦争の瀬戸際まで行ったが、しかし韓国の仲介で非核化を宣言した。

それでは次なる奇跡はいかなるものであろうか。

これからの 10 年の長期で見るとき、過去の出来事の延長として浮かび上がってくるの

は次の二つである。

- ① 北朝鮮の経済開発の成功：10～20年後には北東アジアの軌跡といわれるかもしれない。これは北朝鮮の平和裏の民主政治への転換を予想させるものである。
- ② 中国に於ける共産党独裁からの転向：世界の歴史ではどの独裁政権も、不正の跋扈・蔓延により最終的に行き詰まる。中国共産党政権が独裁による弊害から、社会の透明化進展に合わせ、国民選挙を重視する民主的統治にこの10年以内に平和裏に転換する可能性は高いと予想できる。

& 2. 北東アジアの Missing Link の解消

このような展望を持つとき、北東アジアは具体的にいかなる変革が起こってくるのであろうか。観光・輸送の面から考えてみる。

北東アジアには従来二つのミッシングリンクが存在した。これが解消する可能性が出てきた。極めて大きな変化である。

その一つは、北朝鮮が北東アジアのど真ん中に座っているにもかかわらず、北東アジアの国際交通路の国内通過を拒否し続けたことにより、韓国がまるで島国のような存在になっていたことである。

二つ目は吉林省、黒龍江省が日本海に出られず、陸封状況のまま今日に至っていることである。

前者の解消は、韓国が陸路で中国、ロシア、欧州につながることを意味し、韓国の鉄路がユーラシア中に延びることを可能にする。加えて韓国の港湾がユーラシア交通の起終点になれることから、韓国の世界輸送における利便性が極めて高まると予想できる。

後者は従来、吉林省、黒龍江省が日本海に出るためにはロシアのザルビノ港、若しくは北朝鮮の羅先港の利用が考えられたが、国連 UNDP などの協力もあったものの、長年なかなか進展しない状況にあった。北朝鮮が平和志向となり、経済興隆を指向すれば、(ポテンシャルはザルビノ港の比ではないので) 羅先港は、その昔中国南部の出入口として香港が大きく機能したように、中国北部の出入口として活躍することが出来る。

これは吉林省、黒龍江省合計 6500 万人の外国貿易を拡大することから、中国にとっては極めて大きな利益になる。それは北朝鮮、日本にも関連利益をもたらすことから日本海大交流時代がこの場所を起点に発生する。日本海大交流時代の主役は中国東北地域と北朝鮮であろう。日本は日本海横断航路を対岸と新潟の間に開設すると共に、日本の太平洋側地域の積極的参加を導入すべきであろう。明るい環日本海時代の出現はロシアの東方シフトを大いに加速させ、ロシアの社会安定に貢献しよう。